

Analysis of Bank Stability and Profitability in the Eurasian Economic Union

オルガ, パク

<https://hdl.handle.net/2324/2236331>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (経済学), 論文博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名	Olga PAK (オルガ パク)			
論 文 名	Analysis of Bank Stability and Profitability in the Eurasian Economic Union (ユーラシア経済連合における銀行の安定性と収益性に関する分析)			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	岩田 健治
	副 査	九州大学	教授	加河 茂美
	副 査	九州大学	教授	大坪 稔
	副 査	下関市立大学	教授	川波 洋一
	副 査	山形大学	教授	山口 昌樹

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、地域的経済統合を進めるユーラシア経済連合(EAEU)の原加盟 3 カ国 (ロシア・ベラルーシ・カザフスタン) の銀行システムについてとりあげ、金融サービス部門における EAEU 単一市場完成のための諸課題について、銀行業の安定性と収益性に焦点をあてながら、独自に収集した 2000 年代後半以降の豊富なデータを用いて総合的に分析している。

本論文の意義として、以下の点を挙げることができる。第 1 に、単一市場形成に向けて統合を進める EAEU 原加盟 3 カ国の銀行部門の構造・規制監督・安定性などについて、既に単一市場を完成させている EU(欧州連合)と比較しながら検討を行い、域内におけるロシアの銀行の優位性、競争圧力を通じた国有銀行のシェア低下、域内で不均質な銀行規制、各国銀行部門が抱える特有の課題を明らかにした点である。第 2 に、EAEU 原加盟 3 カ国における銀行の安定性に関して、自己資本と流動性という観点から、それぞれ Z スコアおよび NSFR (安定調達比率) を用いて所有形態別に実証分析を行い、ロシアに対して 2014 年に実施された経済制裁の所有形態別・国別影響、規模や貸出増加率と安定性の関係、流動性ファンディングの安定性と所有形態との関係等を明らかにし、自己資本増強の重要性について指摘した点である。第 3 に、EAEU 原加盟国における NSFR 規制の導入および SIB (システム上重要な銀行) 規制に着目して実証分析を行い、前者が流動性に係るリスクを低減させる一方で NIM (純預貸利鞘) も低下させることで金利関連以外の業務へのシフトを促すこと、システム上重要な銀行の NSFR は健全ではなくその NIM も薄いことなどについて明らかにし、この点からも自己資本の増強が銀行システムの安定性にとって重要であることを指摘した点である。

全体として本論文は、EAEU 原加盟 3 カ国の銀行に関する豊富なデータを用いて、これら諸国の銀行部門が直面する諸課題について安定性と収益性に着目しながら総合的に検討を行うことで多くの新たな知見をもたらし、従来欧米の銀行を対象に蓄積されてきた研究を EAEU に拡張することに成功している。さらに、本論文がもたらした新たな知見は、2025 年の単一市場形成に向けて統合を深化させている EAEU の銀行規制に対しても重要な示唆を提供している。

以上の理由により、本論文調査委員会は、オルガ パク(Olga PAK)氏より提出された論文 *Analysis of Bank Stability and Profitability in the Eurasian Economic Union* (ユーラシア経済連合における銀行の安定性と収益性に関する分析) を博士(経済学)の学位を授与するに値するものと認める。